

高齢者に安心…福祉の公明党

白内障の眼内レンズ挿入手術の 保険適用で負担を軽減

白内障は眼球の水晶体が灰白色(かいはいくしょく)に濁る病気です。日常生活に差し支えるほど視力が衰えます。その白内障に有効な治療法の一つが「眼内レンズ挿入手術」。公明党の取り組みで、この手術が保険適用になっています。保険適用前は、手術費と眼内レンズ代が片目だけで約15万円もしました。両目ならその倍かかります。保険適用により入院費込みで高くても5～6万円ですむようになり、患者負担が大幅に軽減されました。

高額療養費の外来窓口支払が 限度額で済むように

医療機関や薬局の窓口で支払う自己負担額が、1か月単位で一定額を超えた場合、超えた分を戻すのが「高額療養費制度」です。入院では「認定証」の提示により、支払いは自己負担限度額だけで済みます。しかし、外来診療では限度額を超えても、いったん全額支払う必要がありました。公明党の取り組みで今年4月からは、外来も「認定証」を提示すれば、自己負担限度額を超える分を窓口で支払う必要がなくなりました。「認定証」は各医療保険の加入担当窓口国保なら区役所国保給付担当(03-3228-8954)で申請できます。

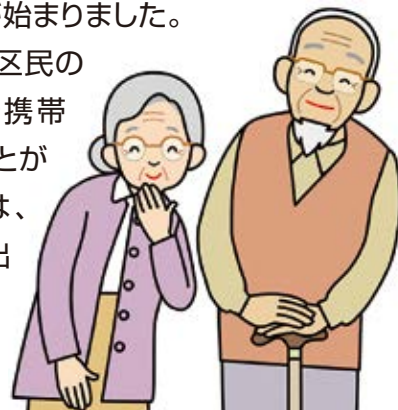


年金の受給資格期間が 25年から10年に短縮

年金の受給資格を得るためには、保険料を通算で25年以上納める必要がありましたが、10年以上に短縮されます。無年金者をなくすために公明党が推進してきたもので、平成27年10月から実施されます。今後3年間(平成27年9月30日まで)は、納め忘れた保険料を10年前までさかのぼって納めることができます。未納による年金額を増やすことはもちろん、納付した期間が不足している人も受給資格が得られるようになります。

防災無線が聞こえないときは 電話で内容を確認

防災行政無線のスピーカーから放送される内容が、建物に反響したり、豪雨の時に聞こえないといった苦情がたくさんあります。中野区では公明党の推進で今年4月から、防災無線で放送した内容を電話で確認することができる「音声自動応答サービス」(03-3228-5726)が始まりました。高齢者の方々をはじめ区民の皆様、自宅の電話や携帯電話からも聞き直すことが出来るこのサービスは、災害時なども利用が出来ます。



小林 ぜんいち

■区議会役職
中野区議会 震災対策特別委員会副委員長、
総務委員会委員、
議会運営委員会委員
中野区社会福祉協議会評議員

■資格所属団体等
(社)日本建築学会正会員
(社)東京建築士会正会員
早稲田大学稲門建築会会員
福祉住環境コーディネーター協会会員
マンションリフォームマネージャー
日本防災士機構

■経歴

宮本忠長建築設計事務所東京事務所に16年勤務、TAF設計事務所に勤務。
教育・福祉・医療・文化・事務所・商業・宿泊・公共施設、耐震診断、
耐震補強設計や住宅設計等に従事。
独立後、建築専門学校等講師、住宅設計等に取り組む。



HOMEPAGE
ホームページ

小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト

サイトURL:
<http://kobayashizenichi.com/>

ブログURL:
http://blog.goo.ne.jp/kobayashi_zenichi

Facebookは、**小林ぜんいち** または **Zenichi Kobayashi**
Twitterは、**小林ぜんいち** または **@koba_zen**

小林ぜんいち NEWS

NEW KOMEITO
公明党

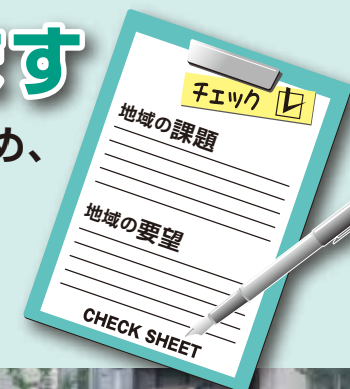
第6号
2012年11月発行
中野区公明党議員団

地域の課題点検に歩いています

区民の皆様から頂いた地域の課題・要望にお応えするため、
高倉良生都議会議員と連携し一緒に歩いて廻りました。

中野五差路では、五差路の複数車線確保と、大久保通りから
中野通りへの右折レーン早期設置について。

都道を横断する通学路の安全性確保のための点検、青梅街
道の電線の地中化、都道・山の手通り・青梅街道・中野通りの
樹木点検、桜並木の提案など。



にぎわいフェスタ(中野四季の森)



祭り



遠位型ミオパチー劇観賞



東北復興大祭典なかの(ねぶた)



中野四季の森夜景



大阪府豊中市視察



中野区内消防団合同点検



中野区総合防災訓練

中野区議会 議会報告 平成24年 第3回 定例会 一般質問



一般質問

一般質問項目

1. 震災・防災対策について

- ① 避難可能施設の導入について
- ② 消火栓・排水栓へ接続できる、給水および初期消火用スタンドパイプの導入・活用について
- ③ 避難所の「非構造部材」の耐震対策について

2. 建築行政について

- ① 街並み誘導型地区計画の導入について
- ② 耐震診断後の工事トラブル未然防止対応策等について
- ③ 木造密集地域「木密地域不燃化10年プロジェクト」について

3. 就労支援事業について

- ① 生活保護受給者の就労支援について
- ② 就業喚起事業の創設について
- ③ 就労支援を促進する体制の整備等について

4. 地域支えあいの推進について

- ① 「見守り対象者名簿」「要援護者名簿」の活用について
- ② 町会・自治会の名簿活用について
- ③ 町会・自治会支援へ向けて区の体制強化について

5. その他

- ① 中野区独自の原動機付き自転車用ナンバープレート交付について

避難可能施設の導入について

小林

私は、事務所・マンション等民間建物を防災拠点にと提案してきた。中野区で、現在の避難所だけでは不十分とも想定されるから、一定規模以上の施設を建設する事業者に対し、避難所の機能を一時代替えたり、避難所に向かうことや過ごすことが困難な区民が一時滞在する機能を建物内に確保することを求めている。また、受け入れ一時滞在施設・避難代替え施設の設置を義務化・条例化してはどうか。

答弁

安全性に問題ない建物を震災時にいかに有効に活用するかは重要な課題。どのような施策が有効か、今後検討したい。条例において、防災施設設置の状況に応じて規定を一部緩和することについても、検討したい。

消火栓・排水栓へ接続できる、給水及び初期消火用スタンドパイプの導入・活用について

小林

スタンドパイプは、消火栓、排水栓に接続し、初期消火に大きく役立つ資機材。消防署では防災訓練の折、スタンドパイプを使って消火栓から取水し、消防団や町会の方に消火活動ができるよう、使い方の訓練も行っている。スタンドパイプは給水管の断水・切断が無い限り、応急給水にも活用できる。区は消火栓・排水栓へ接続できるスタンドパイプの導入と活用に向け、具体的な検討をしてはどうか。また、木密地域・先行モデル地区への地域防災会・防災倉庫へスタンドパイプを導入し活用すべきと考える。

答弁

東京消防庁とも協議しながら、どのように活用できるか検討して参りたい。また、スタンドパイプを導入する場合、火災危険度の高い地域を考慮して導入について検討したい。

避難所の「非構造部材」の耐震対策について

小林

避難所施設となる区内学校などの天井や照明器具、窓ガラスなどのいわゆる「非構造部材」を、耐震対策として専門の技術を持った方により点検を行ったのか。また、多くの避難者が集まる学校など、防災・減災のためにも点検、耐震対策を積極的に進めるべきではないか。

答弁

天井板、照明器具の落下、空調機の設置状況など19項目に渡って安全性の調査を行い、緊急度に応じて必要な改修を行った。

街並み誘導型地区計画の導入へ向けて

小林

私は中野の環境とまちづくりのために、また、中野らしい街並みの整ったまちづくりを進めていくことが、これからの中野に必要と求めてきた。区内で用途地域が商業地域や近隣商業地域であるにもかかわらず、建て替えに当たって建築基準法の規制がかえって厳しく、既存建築物よりも小さな規模の建物しか建たないケースがある。斜線制限などネックとなる問題を、インセンティブを付与するなど活用しやすく改善してはいかか。また、区域を限って敷地面積の最低限度を定めた内容に適合した場合、前面道路幅員による容積率制限の適用除外や斜線制限の適用除外など、緩和措置が盛り込まれた街並み誘導型地区計画などを中野区でも導入することを検討してはどうか。

答弁

地区の状況を勘案し、活用について検討したい。中野駅周辺などまちづくりを進める中で、手法の一つとして検討しながら、よりよいまちづくりを進めて参りたい。

耐震診断後の工事トラブル未然防止対策等について

小林

昨年の大震災以降、耐震診断の区への依頼が増加していると聞く。その中で、区民の方からリフォームをはじめ、耐震診断後の耐震補強工事に関わるトラブルの相談が多い。トラブルを減らすためその業者対策を作り、また、耐震工事利用者には、工事業者の案内、正しい施工方法・工事監理方法などの案内用紙を添付し、注意喚起を促す対策も必要と思う。専門家団体を案内するなど、具体的な対策をとってはいかか。

答弁

耐震改修工事等を依頼する際の注意点を説明したチラシを配布する啓発活動を行い、対策を講じる。専門家団体との連携強化などにも取り組む。

「見守り対象者名簿」「要援護者名簿」の活用について

小林

中野区では、地域で地域の高齢者を支えていこうと、「中野区地域支えあい活動の推進に関する条例」をつくり、町会・自治会の一部に「見守り対象者名簿」と、地域防災会に提供されている非常災害時救援希望登録制度に基づく「要援護者名簿」を提供している。2つの名簿があることで、町会で支えていく範囲と区の行う範囲が不明確であり、戸惑いのお声を聞く。それぞれの名簿がお互いに活かされるよう、活用方法を明確にすべきと考える。町会・自治会と区が行う範囲や連携について、確認し活用を進めるべきではないか。

答弁

2つの名簿を統一的に運用していくための課題を整理している。より効果的な活用が図れるよう取り組む。

中野区独自の原動機付き自転車用ナンバープレート交付について

小林

中野区で交付している原動機付き自転車(125CC以下、原付バイク)等のナンバープレートを、中野区をイメージするキャラクターやモチーフを入れた「中野独自のナンバープレート」に変えてはどうか。ナンバーの形、キャラクター、図柄など図案は、区民の皆さんに広く公募してはどうか。

決算特別委員会答弁

自治体で独自のデザインナンバープレート作成し交付し、PR効果が有ったと聞く。都市観光や、産業振興に関する施策とも考慮しながら検討していく。

